



JA資産設計ファンド(積極型)

設定日:2001年2月20日 償還日:無期限 決算日:11月16日(休業日の場合は翌営業日)

追加型投信/内外/資産複合

●商品の特色

- 当ファンドは、JA日本株式、JA日本債券、JA海外株式、JA海外債券の各マザーファンドを主要投資対象とし、予め定められた基本配分比率(※)に基づき分散投資を行います。
- ※ JA日本株式マザーファンド:45%、JA日本債券マザーファンド:15%、JA海外株式マザーファンド:25%、JA海外債券マザーファンド:10%、その他(短期資産):5%
- 当社が独自に指数化した合成インデックス(※)をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ※ TOPIX:45%、NOMURA-BPI総合:15%、MSCI KOKUSAI・インデックス(当社円換算ベース):25%、シティ世界国債インデックス(除く日本、当社円換算ベース):10%、短期資産(有担保コール翌日物):5%
- 実質組入外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。

●基準価額の設定来推移



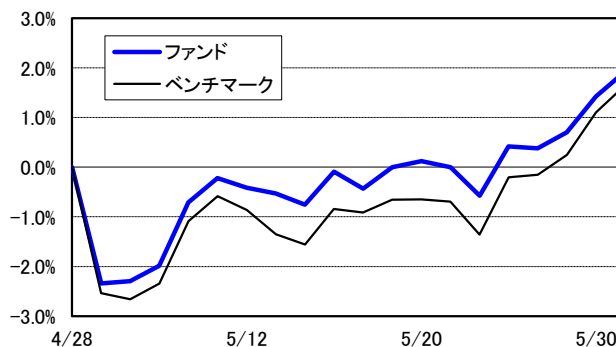
※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。

※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。

※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当月のパフォーマンス推移



●設定来の運用実績

	ファンド騰落率 (分配金再投資) (1)	ベンチマーク 騰落率 (2)	差異 (1)-(2)
	(%)	(%)	(%)
過去1ヵ月	1.93	1.66	0.28
過去3ヵ月	5.20	4.61	0.59
過去6ヵ月	-7.01	-7.78	0.77
過去1年	-10.71	-11.14	0.42
過去3年	23.23	20.88	2.35
設定日以来	56.86	46.71	10.15

※1 ファンド騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。

※2 ファンド騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●基準価額と純資産総額

年月日	基準価額	ベンチマーク	純資産総額
	(円)	(ポイント)	(百万円)
2016/05/31	14,304	14,671.04	736
2001/02/20 (設定日)	10,000	10,000.00	11

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。

※2 設定日の基準価額は設定当初の投資元本です。

●直近6期の分配実績

決算年月日	分配金 (課税前)
	(円)
2015/11/16	210
2014/11/17	210
2013/11/18	200
2012/11/16	0
2011/11/16	0
2010/11/16	0
設定来合計	1,220

※ 1万円当たりの実績です。

●信託財産の構成

	ファンド	基本配分 比率	差異
JA日本株式マザー	45.11%	45.00%	0.11%
JA日本債券マザー	15.68%	15.00%	0.68%
JA海外株式マザー	25.39%	25.00%	0.39%
JA海外債券マザー	9.22%	10.00%	-0.78%
短期資産等	4.59%	5.00%	-0.41%
合計	100.00%	100.00%	-

※1 比率は純資産総額対比です。

※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。



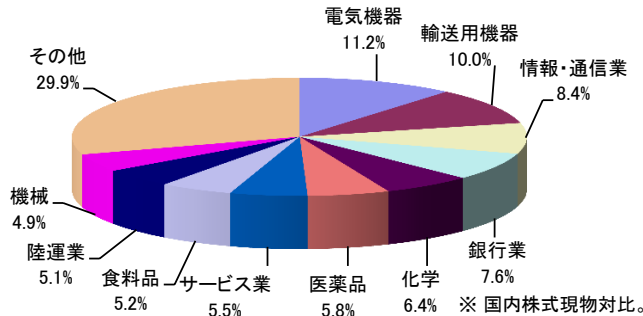
JA資産設計ファンド(積極型)

追加型投信／内外／資産複合

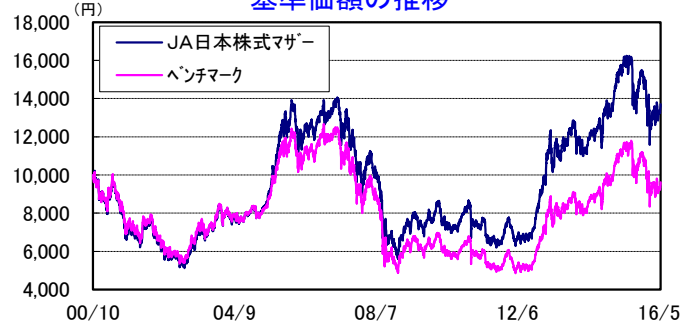
●各マザーファンドの状況

＜JA日本株式マザーファンド＞

組入上位10業種

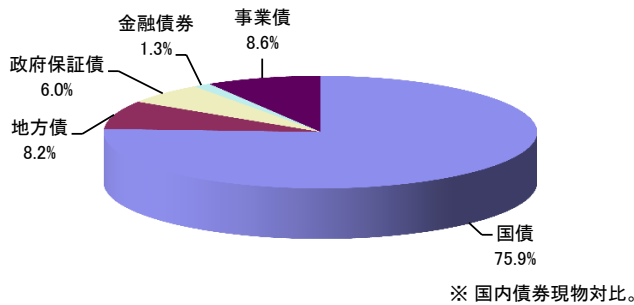


基準価額の推移

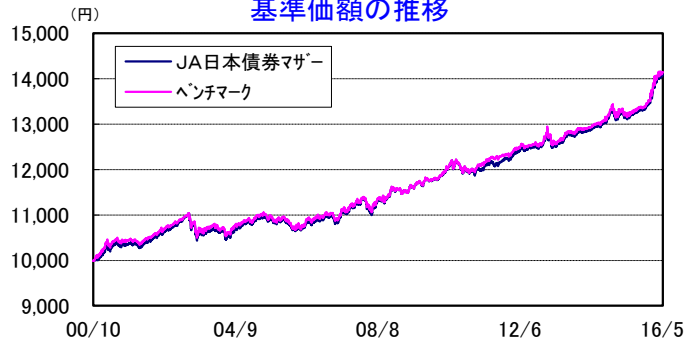


＜JA日本債券マザーファンド＞

種別組入比率

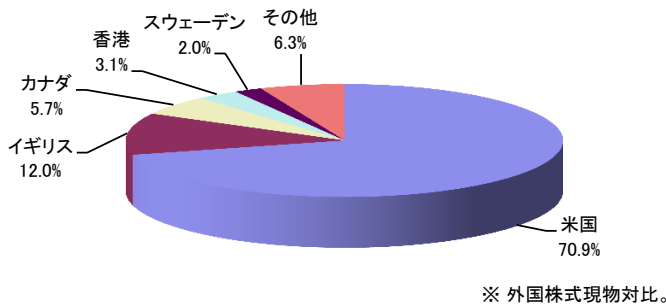


基準価額の推移



＜JA海外株式マザーファンド＞

国別組入比率(上位5ヶ国)

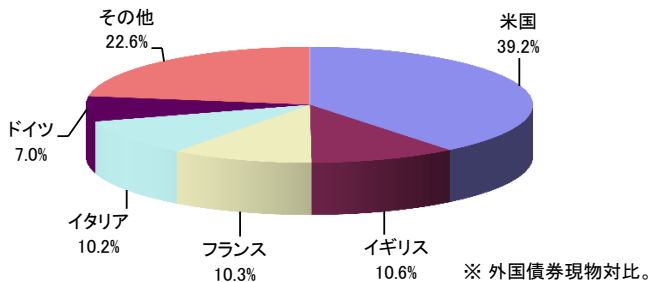


基準価額の推移

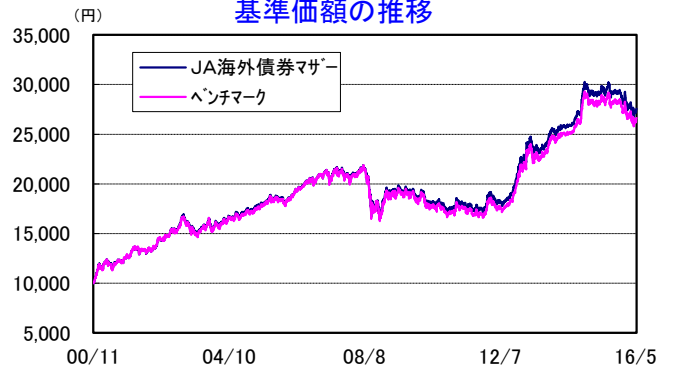


＜JA海外債券マザーファンド＞

国別組入比率(上位5ヶ国)



基準価額の推移



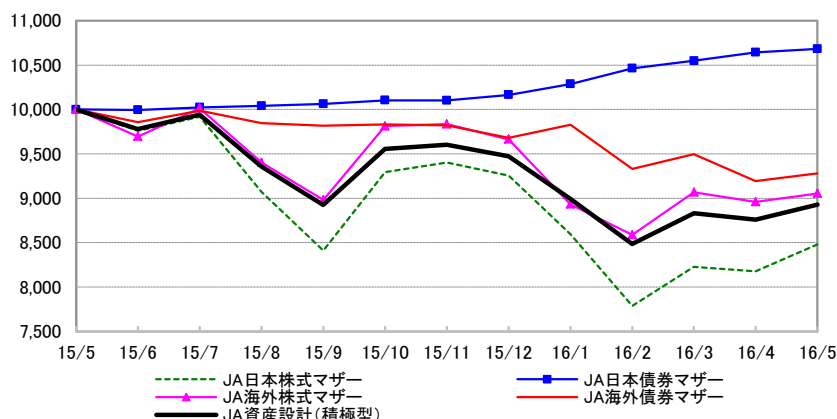
JA資産設計ファンド(積極型)

追加型投信／内外／資産複合

●当ファンドと各マザーファンドの基準価額の推移(過去1年)

＜参考/基準価額の要因分解＞

(単位:円)



※1 スタート(1年前応募月末)を10,000として指数化したものです。

※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

基準価額	
2016年5月31日	14,304
2016年4月28日	14,033
増減	271
マザーファンド要因	
JA日本株式マザー	231
JA日本債券マザー	8
JA海外株式マザー	37
JA海外債券マザー	12
その他要因	-17
要因合計	271

※ 上記の要因分析は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。

＜運用担当者のコメント＞

●5月の運用状況

ベンチマークの月間リターンは、前月末対比+1.66%となりました。海外株式は、原油価格の反発に加え、米国の堅調な個人消費や住宅関連の経済指標が好感されたことなどから、米国、欧州ともに上昇しました。日本株式については、円安が進行したことや、消費税増税先送り報道などを受けて上昇しました。米国金利は、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において、早期利上げに対して積極的な姿勢が確認されたことを受けて金利上昇しましたが、欧州金利は、欧州委員会が成長率とインフレ率の見通しを引き下げたことなどから金利低下となりました。国内金利は良好な需給環境を背景に金利低下となりました。為替は、ドルに対して円安、ユーロに対して円高と、まちまちな動きとなりました。ファンドの月間リターンは、前月末対比+1.93%(分配金再投資ベース)となり、5月末の基準価額は前月末比271円上昇の14,304円となりました。

ベンチマーク対比のパフォーマンスについては、日本株式、海外株式について、マザー超過リターン要因がプラスとなったことなどから、+0.28%となりました。

●今後の市場見通しと運用方針

(市場見通し)

○ファンダメンタルズ

日本: 外需は足許やや鈍化基調であり、生産・投資動向についても一部に弱含みの兆しがみられます。国内需要については、消費者心理が引き続きやや鈍化基調にあり、消費の力強さに欠ける状態です。そのため、日本経済は総じて横ばい圏で推移するとみられます。また、物価については、為替水準が大きく円高に進んでおり、物価の基調も鈍化するなか、日銀は物価見通しを引き下げています。そのため、緩和的な金融政策の継続が見込まれ、更なる金利の引き下げも想定されます。

米国: 企業部門の景況感は持ち直しの兆しがみられるものの、企業の生産・投資は鈍化基調が続いています。消費者心理は改善基調で、個人消費は力強さに欠けるものの底堅く推移しています。住宅関連指標も回復基調にあります。雇用は緩やかな回復軌道にあり、米国経済は総じて緩やかな回復基調にあると考えられますが、原油価格が一時の低迷から持ち直すなか、企業の生産・投資活動は引き続き弱含んでおり、成長の持続性については留意が必要と考えられます。物価については、財価格に下押し圧力が生じていますが、サービス価格は上昇基調にあり、賃金も上昇の広がりが見られる等、緩やかながら上昇基調となっています。原油価格の持ち直しや中国経済減速懸念の後退を背景に、グローバルな金融市場が落ち着きを見せるなか、米連邦準備制度理事会(FRB)は追加利上げについて、内外の金融情勢を睨みつつ、物価動向や景気回復の勢いに留意しながら慎重に判断していくものと考えられます。

欧州: 欧州経済は、ユーロ安基調となるなか、製造業受注は持ち直しの兆しがみられるものの、アジアへの輸出等に弱さがみられるなど、全体としては力強さに欠けています。欧州主要国の消費には改善の兆しがみられる一方、周辺国の失業率は高止まりするなど、各国の景気動向にばらつきがあり、経済に力強さはなく、全体としてはもたつきがみられます。物価については、マイナス圏から一時持ち直したものの再びマイナス圏に陥るなど総じて弱く、欧州中央銀行(ECB)による緩和的な金融政策の継続が見込みます。

新興国: 新興国全体では金融政策や物価動向について、国ごとに二極化しています。中国の景気減速や、急速な原油価格下落を受け、エネルギー輸入国や米欧との経済的な繋がりが強い地域については、一定程度下落には耐え得ると思われるものの、資源国や対中国依存度が高い国の一段の成長鈍化には留意が必要と考えられます。

※運用担当者のコメントは5月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

JA資産設計ファンド(積極型)

追加型投信／内外／資産複合

<運用担当者のコメント>**○株式市場**

日本:日本株は緩やかな金融政策の継続が株価の下支えとなるものの、国内の基礎的要因については回復にもたつきが見られており、為替水準が大きく円高に進んだことや、原油価格の低迷や中国経済減速懸念がくすぶるなか、横ばい圏での推移を見込みます。

米国:米国経済は緩やかな回復基調にあり、慎重な利上げペースが企業業績および株価の下支えとなるものの、原油価格の低迷継続や中国経済減速への懸念がくすぶっていることから、横ばい圏での推移を見込みます。

欧州:緩やかな金融環境が株価には一定の下支え要因となることを見込むものの、企業業績の回復は緩慢であり、横ばい圏での推移を見込みます。

○債券市場

日本:日本経済の回復にもたつきが見られるなか、日銀は通貨の供給量拡大とマイナス金利導入による追加金融緩和を実施しており、更なる金利の引き下げも見込まれることから、当面の間、国内金利は低水準での推移が想定されます。

米国:米国長期金利については、日欧中銀による量的金融緩和の継続やマイナス金利政策の導入からグローバルに金利上昇は抑制される傾向にあると考えられますが、米国経済は回復基調にあることから、米国経済の回復ペースや米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げペースを確認しながら、緩やかに上昇していくものと想定されます。

欧州:独国長期金利については、インフレ率が低位で推移するなか、欧州中央銀行(ECB)は量的金融緩和を継続しており、当面の間、独国長期金利は低水準での推移が想定されます。

○為替

ドル/円については、日銀による追加金融緩和が想定されますが、マイナス金利政策の効果の不透明感や、米国財務省のドル高への牽制的な姿勢から、一定の値幅内での推移を見込みます。

ユーロ/円については、日銀および欧州中央銀行(ECB)による緩やかな金融政策の継続が見込まれることから、一定の値幅内での推移を想定します。

(運用方針)

- ・基本配分比率に基づき、各マザーファンドの組入れを行います。
- ・各マザーファンドの時価の変動により、基本配分比率からの乖離が一定幅以上になった場合には、リバランスを行います。



JA資産設計ファンド(積極型)

追加型投信／内外／資産複合

○お申込みメモ

- 購入 いつでもご購入いただけます。
- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入申込日の翌営業日の基準価額
- 購入時手数料 購入申込日の翌営業日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託設定日 2001年2月20日
- 信託期間 無期限
- 信託報酬 純資産総額に対して次のとおり。
【安定型】年率1.08%(税抜1.00%)
【成長型】年率1.188%(税抜1.10%)
【積極型】年率1.404%(税抜1.30%)
- 決算日 毎年11月16日(休業日の場合は翌営業日)
- 収益分配 原則として実質的な利子・配当収益に相当する収益を中心に、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。
分配金再投資(累積投資)専用ファンドですので、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。
- 換金 いつでも解約請求によってご換金いただけます。
- 換金単位 1口単位
- 換金価額 換金申込日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 信託財産留保額 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額
- 換金代金の支払い 換金代金は原則として換金申込日から起算して5営業日目から支払いを行います。
- 税金
 - <個人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金については、配当所得として取り扱われ、課税されます。
 - ・換金時ならびに償還により交付を受ける金銭等は、譲渡所得とみなし、譲渡益に対し課税されます。
 - <法人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額に対し課税されます。

※ 税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署などへお問い合わせください。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すると、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

○委託会社、その他の関係法人

- ◆委託会社: 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
: ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外株式マザーファンドおよびJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用等の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- ◆受託会社: 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- ◆販売会社: 以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の先までお問い合わせください。
◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
ホームページ: <http://www.ja-asset.co.jp>
フリーダイヤル: 0120-439-244(受付時間: 営業日の午前9時～午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

**JA資産設計ファンド(積極型)**

追加型投信／内外／資産複合

○主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託（以下「当ファンド」という。）をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書（交付目論見書）の内容をよくお読みください。

＜当ファンドに係るリスクについて＞

当ファンドは、主にわが国の株式、債券、日本を除く世界先進各国の株式および日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象とします。国内、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、国内、海外株価の下落による組入れ株式の価格の下落、組入公社債や組入株式の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

＜当ファンドに係る手数料等について＞

◆申込手数料（1口当たり）・・・申込時にご負担いただくものです。

お申込日の翌営業日の基準価額に1.62%（税抜1.50%）以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

◆換金（解約）手数料・・・換金時にご負担いただくものではありません。

ありません。

◆信託報酬・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に以下の率を乗じて得た額とします。

安定型：年1.08%（税抜年1.00%）、成長型：年1.188%（税抜年1.10%）、積極型：年1.404%（税抜年1.30%）

◆信託財産留保額（1口当たり）・・・換金時にご負担いただくものです。

換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%の率を乗じて得た額とします。

◆監査費用・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年0.00324%（税抜年0.003%）の率を乗じて得た額とします。

◆その他の費用（*）

有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引、オプション取引等に要する費用、外国における資産の保管時に要する費用、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税、受託者の立て替えた立替金の利息、資金借入れを行った場合の借入金利息

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「費用と税金」をご覧ください。

（*）「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

当該手数料等の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

○留意事項

■ 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」といいます。）が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

■ 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見通しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。

■ 当ファンドは、株式や公社債などの値動きの生じる証券（外貨建証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくことになります。

■ 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金（貯金）保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

■ ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。